

ゆめじろう夏祭りについて

活動先：NPO 法人 ゆめじろう
クラス：石川 満 先生

1. 特に印象的だった活動

私が NPO 法人ゆめじろうで特に印象的だった活動は、去年から開催されている「ゆめじろう夏祭り」に、提供側として参加させていただいたことです。

私たちはこの夏祭りに、企画の段階からゆめじろうのスタッフさんと一緒に参加させていただきました。私は、ラムネ飲み競争という企画を担当させていただきました。

この企画について、会議を何回も重ねてきたので、なんとなくうまくいこうと思っていました。しかし、当日では自分の思い描いていた通りにはいきませんでした。それは参加者のほとんどが、小学生の子どもたちばかりだったので、企画の進行をしようとしてもなかなか言うことを聞いてくれなくて大変でした。

ルールを説明するときにも、自分ではわかりやすく説明しているつもりでもあまり伝わっていない子がいました。さらに、炭酸であるラムネを一気に飲むことは無理をすると危険なので、無理はしないようにと説明したのですが、無理をしてしまって体調を崩してしまった子も出てしまいました。幸いなことに、すぐに体調は良くなりましたが、計画の段階で自分では良いと思っていたても、なかなかうまくいかなかった苦い経験になってしまいました。

うまくいかなかったことも多くあって、戸惑ったこともたくさんありました。それでも、スタッフさんに助けられたり、当日来てくださったボランティアさんのおかげで、楽しく無事に祭りを終えることができました。

祭りではたくさんの地域の方々に参加していただきました。ゆめじろう夏祭りでの目標だった地域の方にゆめじろうのことをもっと知っていただくという目標は達成できたと思いました。

2. 活動を通しての気付き・成長

特に印象的だった活動で挙げたゆめじろう夏祭りのことですが、物事を計画することの難しさを学びました。

ラムネ飲み競争の企画を考える段階からご一緒させていただきました。そこで本番ではどのようなことが起きる可能性があるのかを具体的に想定して、それに対応できるような対策をとらないといけなかったことに気付きました。今後の大学生活や、社会に出た時にもこのことは使えると思うので、活かしていきたいです。

ゆめじろう夏祭りの計画をする過程で、ゆめじろうの利用者さんにも協力していただきました。祭りで出す屋台の試食をしたり、射的などの企画を実際にやっていただいたりしました。

そのときに、どう利用者さんと接するのが私たちの課題でした。一人一人接し方が違

うので、その人に合った接し方を見抜く必要がありました。そのために TEECH とは何か、ダダ父通信などを読んでから臨みました。現場では、これらのことを読んで学んで、その利用者さんの特徴をよく観察して見抜いていく技術が要求されてくるということがわかりました。

3. 活動を通して見えてきた地域課題や社会課題

NPO 法人ゆめじろうは夏祭りを通して、地域にゆめじろうのことをもっと知ってもらい、地域との関わりを活性化しようとしていました。スタッフさんに聞いた話では、地域でゆめじろうのことを知っている人はまだまだ少ないそうです。地域の課題としては、NPO 法人の存在を知ってもらい、地域と密接な関係を築くことだと思います。

NPO 法人は土地を借りたりしていて、社会福祉法人ではなく NPO 法人のため、税金などお金が余計にかかってしまうという問題があります。そのせいで負担が大きくなってしまっているので、経営にも影響が出てしまいます。この問題も、解決していくにはどうしたらよいか考える必要があると思います。

4. 1 年間の総括

私はこの 1 年を通して、サービスラーニングクラスを選択してよかったと思います。先生からのアドバイスで、P、D、C、A の過程で特に P を大事にして、これからの自分のやりたいことなどを探していきたいと思います。1 年間ありがとうございました。